

『くやれしもの闘い』

—社会と自己をめぐる

思案の旅路で—

栗原 彬 著

『やれしものゆくえ』現代青年論』『やれしもの存在証明』に続く、著者一五年にわたる「やれし」三部作の最新刊。主に90年代に新聞、雑誌等に発表した論の集大成である。

「どの政党のNPO法案

も、従来の許認可制の発想の延長線上で組み立てられている。市民活動の自発性

・自律性が失速し、お上の監督権が強まる恐れがある」「市民とは、働く、暮らす、楽しむ、闘う、やりと

りするもの。政治的な闘う

市民、対話する市民こそ市

民」「一人ひとりが自由で、

個が生かされながら、他の

人と共働する結びあいがネ

ットワーキング」「めいめい

の個性が明るく、異なる存

在の共振としての島宇宙と

こう点で、宮沢賢治の羅須

人協会は今日の人間のネ

トワーキングにつながる

など多くの示唆に富む。

(新曜社 二四七二円)